

防衛大学校
2025年度前期講義[航空宇宙法]

第1回 講義ガイダンス

2025年4月16日(水)

高屋友里

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

1. 講師紹介

高屋友里

東京大学 未来ビジョン研究センター 客員研究員 (Ph.D. [法学博士(国際宇宙法)])
 早稲田大学 社会安全政策研究所 招聘研究員
 防衛大学校 総合安全保障研究科 非常勤講師

専門分野: 宇宙安全保障 / 宇宙資源探査・ビジネス / サイバーセキュリティに関する国際宇宙法



学 歴		職 歴	研究テーマの変遷
早稲田大学法学部(国際機構法ゼミ)	-		
	-	清水建設・宇宙開発室(当時) 担当:広報・調査	宇宙の商業利用 宇宙旅行
オランダ・ライデン大学 国際航空宇宙法研究所 (LL.M.取得)	2000-2001年		
	2001年	国連宇宙部(UNOOSA)にてインターンシップ	宇宙の民生利用 GNSSと国際協力
	2002年	文科省JAXA宇宙科学研究所(非常勤)	
国際宇宙大学・夏季講習(2か月)	2002年		
フランス・パリ第11大学 宇宙衛星通信法研究所 (Ph.D.取得)	2003年-2010年	CSPジャパン(宇宙コンサルティング会社) 委託調査	宇宙の軍事利用 GNSSとミサイル防衛 宇宙安全保障 サイバーセキュリティ 輸出管理
	2011年	神戸大学大学院 法学研究科 学術研究員・非常勤講師「国際宇宙法」	
	2017年-現在	早稲田大学社会安全政策研究所 招聘研究員 東京大学未来ビジョン研究センター 客員研究員	
	2021年-現在	防衛大学校 非常勤講師「航空宇宙法」	

9.11同時多発テロ

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

2. 講義の目的

目的 ① [input] 空域および宇宙空間(天体を含む)における活動に対する国際法上の視点を得る

- a. 適用される国際航空法・国際宇宙法の基礎を学ぶ(総論)
- b. 宇宙空間の民生利用・軍事利用・商業利用において生じている法的課題を概観する(各論)

目的 ② [output] 航空宇宙に関する新たな技術や活動に関する調査・分析・論文執筆のスキルを高める

- a. 確かな情報源の探し方を学ぶ
- b. 国際的な場(国連機関)における研究成果のプレゼン力を高める

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

3. 参考文献の紹介

① 国際航空法

➤ 国内

※全体像を掴むため、まず何冊か「**国際法**」の教科書に記載される「**空域**」の項目を参照することを勧める

例：岩沢雄司 『国際法』(東京大学出版会, 2020年)

杉原高嶺 『国際法学講義(第2版)』(有斐閣, 2013年)

- 藤田勝利(編)『新航空法講義』(信山社, 2007年)
- 池内 宏『航空法～国際法と航空法令の解説～』(2訂版) 成山堂書店 (2021年)
- 坂本 昭雄『新国際航空法』 有信堂高文社(1999年)
- 坂本 昭雄『国際航空法論』 有信堂高文社(1992年)

➤ 国外(英語)

- Pablo Mendes de Leon, *Introduction to Air Law*, Kluwer Law International, 2017.
- Michael Milde, *International Air Law and ICAO*, Eleven International Publishing, 2016.
- Paul Stephen Dempsey, *Public International Air Law*, McGill University, 2008.
- Paul Stephen Dempsey et Ram S Jakhu (eds.), *Public Air Law*, Routledge , 2016.

3. 参考文献の紹介

② 国際宇宙法

➤ 国内

※全体像を掴むため、まず何冊か「**国際法**」の教科書に記載される「**宇宙空間**」の項目を参照することを勧める

例：岩沢雄司 『国際法』 (東京大学出版会, 2020年)

杉原高嶺 『国際法学講義(第2版)』 (有斐閣, 2013年)」

- 青木節子 『日本の宇宙戦略』 (慶応義塾大学出版会, 2006年)
- 小塚総一郎・佐藤雅彦 (編) 『宇宙ビジネスのための宇宙法入門』 (有斐閣, 2015年)
- 中村仁威 『宇宙法の形成』 (信山社, 2023年)

➤ 国外(英語)

(※上記)

- Isabella Henrietta Philepina Diederiks-Verschoor, Vladimír Kopal, *An Introduction to Space Law*, Kluwer Law International, 2008.
- Bing Cheng, *Studies in International Space Law*, Clarendon Press Oxford, 1997.
- Frans von der Dunk et Fabio Tronchetti (eds.), *Handbook of Space Law*, Elgar, 2015.
- Stephan Hobe (ed.), *Cologne Commentary on Space Law I-III*, Heymanns Verlag GmbH, 2010.

3. 参考文献の紹介

③ 国際宇宙法関連サイト

東大とJAXAとの共同プロジェクトとして
宇宙法政策プラットフォームを運用中
spacepolicyandlaw.com

毎月のニュース: Newsletter
宇宙関連イベント: Events
宇宙法資料: Space Law

The screenshot shows the homepage of the SPL Platform, a website for space policy and law. The header includes the logo of the Institute for Future Initiatives (IFI) at The University of Tokyo, the text '宇宙法政策プラットフォーム SPL Platform', and a navigation menu with items: HOME, Newsletter, Events, Space Policy, Space Law, Moot, by Topics, and 4Students. A 'Site Menu' sidebar on the left lists these categories. The main content area features a large image of the Milky Way with the text: 'This website was launched in 2021 under collaboration between the Institute for Future Initiatives (IFI) of the Univ. of Tokyo and Japan Aerospace Exploration Agency (JAXA). It aims to establish an academic platform providing materials, news, and resources related to space policy and law for educational purposes.' Below this, there are three columns of featured content: 'Newsletter' (released on the 10th of every month), 'Space Policy' (introductory resources and Japan's policy materials), and 'Space Law' (resources available in English and Japanese). At the bottom, there are links to '宇宙法文献リスト (2008-2024)' and '宇宙法論文リスト (2020-2024)', both available in PDF and Excel formats. The footer contains a secondary navigation menu and an 'E-mail' link.

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

4. 評価方法

5. 出席票・質問票について

➤ 評価方法

[全15回の講義]

1回の出席につき3点 $5 * 15 = 75$ (点)

議論の参加(出席票に質問) $5 - 25$ (点)

➤ 講義日程

[毎週水曜 10:10-11:40]

4月: 16日 23日 *30日

5月: 7日 14日 21日 28日

6月: 4日 11日 18日 25日

7月: 2日 9日 16日 23日

➤ 出席票・質問票

毎回の講義後、

出席票を

翌日の正午までに

講師までメールすること

講義に関する

- 質問
- 要望(フォントが小さいなど)
- 感想(わかりやすさについてなど)

もお書きください。

出席票	
防衛大学校 2025年度前期 航空宇宙法 (講師: 高屋友里)	
第1回授業	
日付	2025年4月16日(水) (10:10-11:40)
学番	
名前	
質問・要望・感想・コメント欄	
※ どちらかにチェックしてください	
<input type="checkbox"/> 授業に関する質問 (HP上でお答えします)	
http://spacelawnotebook.com/course/questions.html	
(□HPに掲載しないでください)	
<input type="checkbox"/> 要望・感想・コメント (できる範囲で反映します)	
(□HPに掲載しないでください)	

4. 評価方法

5. 出席票・質問票について

➤ 質疑応答について

いただいた質問はできる範囲で

HP上または次回の講義で回答します

<http://spacelawnotebook.com/course/index.html>



高屋友里 宇宙法研究ノート

space law notebook

HOME HOME イベント Events 授業 Course 宇宙法模擬裁判 Space Law Moot 研究 Research 執筆方法 Writing 業績・CV Publication/CV リンク Links

ENGLISH E-mail サイトマップ

授業 Courses

※本ページは現2022年度まで担当した講義の資料およびQ&Aの共有を目的としています。

はじめに A few words

防大2022年度前期 航空宇宙法 NEW

Schedule & Materials
授業日程と配布資料

防大2021年度後期 航空宇宙法 NEW

Schedule & Materials
授業日程と配布資料

神戸大2016年度前期 Space Law & Policy

Schedule & Materials
授業日程と配布資料

Q&A
[1-2] [3-4] [5-6]
[7-8] [9-10] [11-12]
[13-14]

神戸大2015年度後期 外国語講義

授業日程と配布資料
Schedule & Materials

こんにちは。お元気ですか？コロナ禍のため大学でオンライン講義が導入されてから、講義スタイルもずいぶん変わってきました。たとえば対面式の講義では、教室の後ろにいる学生さんでもスライドが見えるよう、フォントサイズを大きくしたり、ホワイトボードを併用して図を書きながら補足説明をしていましたが、いまではなるべく多くの情報をスライドに入れるようにしています。みなさんPC画面で細かい文字も読めるので（笑）声も張らなくてよくなりました（笑）。

本サイトで講義資料を配信するのは久しぶりなので、これまでの経緯を少しご説明します。2014年度から2016年度まで神戸大学で講義をしていましたが、その後2017年度から東京大学公共政策大学院の講座「宇宙開発と公共政策」の宇宙法の講義のみを担当するようになり、また、2021年後期から防衛大学校で航空宇宙法の講義を担当しています。

なお、本サイトは学生さんが宇宙法を勉強できる環境を少しでも整えたいという想いから、講義で使用した教材の共有を目的としています。また、東大とJAXAの共同研究としてAcademic Platform for Space Policy and Lawというサイトの設置・運営に携わっており（まだ未完成ですが）、なるべく多くの宇宙法資料をご紹介しますと願っています。

それでは、本年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

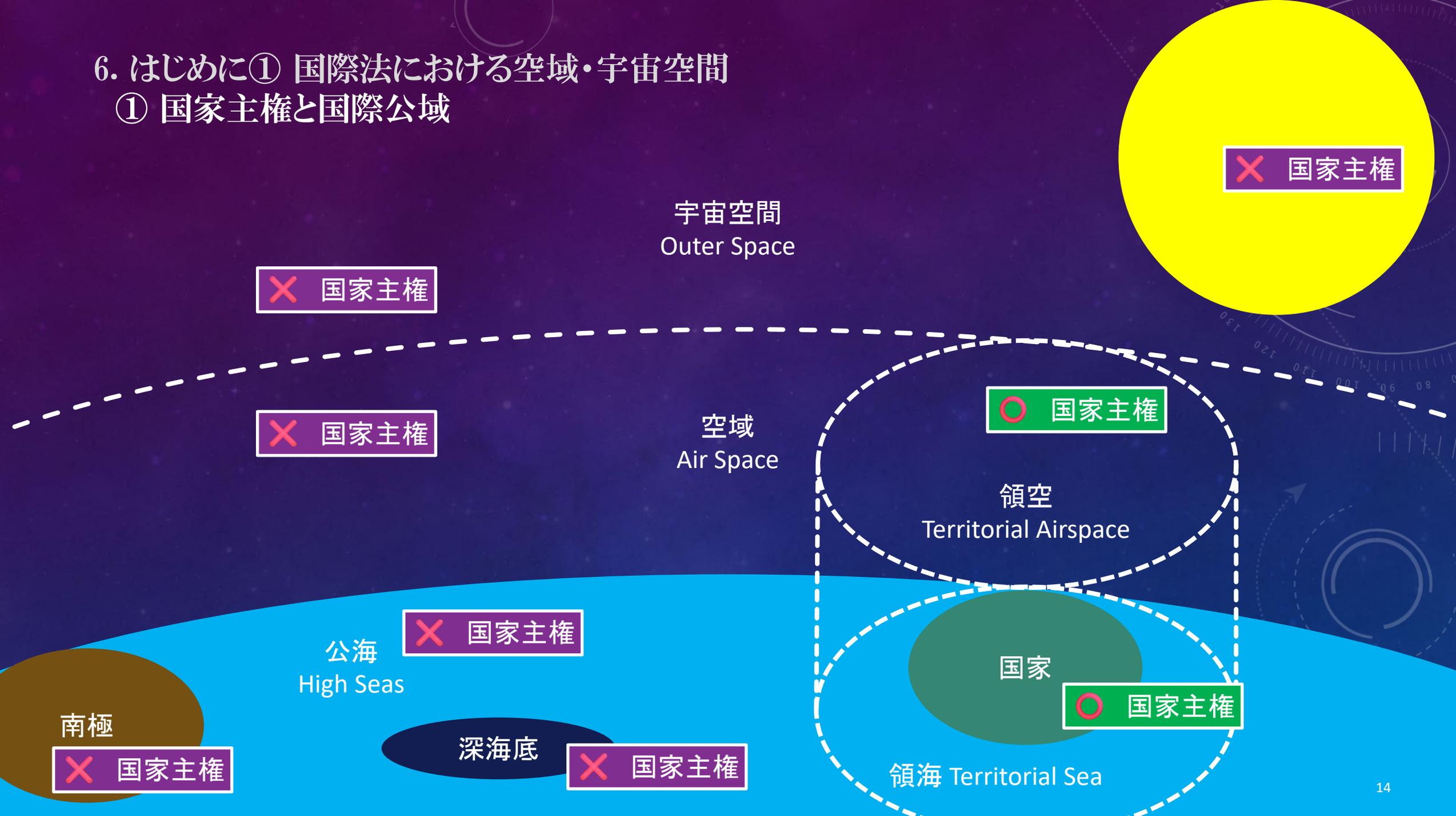
2022年4月13日
東京大学未来ビジョン研究センター 客員研究員
防衛大学校 非常勤講師
高屋友里

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間

① 国家主権と国際公域



6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間 ② 国際公域の誕生

➤ 国際公域とは

どの国家も主権を主張できない地域が地球上にある

公海 high seas

南極 Antarctica

深海底 Deep Seabed

宇宙空間(天体を含む) Outer Space, Celestial Bodies

➤ 無主物説と万民共有物説 *res nullius* vs. *res communis*

無主物説 どの国家の主権も及んでいない領域
最初に占拠した国の所有となる

万民共有物説 どの国家の主権も及んでいない領域
利用はできるが、占拠しても
国家主権の主張は認められない

➤ 技術の発展に伴い、国家の主権が及ぶ範囲と、どの国家の主権も及ばない国際公域とが画定した

- 海洋法(中世末期～) 航行の自由

深海底

(例) 国連海洋法条約

- 空法(1919年～) 領空とその他の空域の画定

(領空主権に基づく) 空の自由

(例) 1944年シカゴ条約

- 宇宙法 (1967年～) 宇宙空間の自由

宇宙空間(天体を含む)の

専有(領有)禁止

(例) 1967年宇宙条約

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

7. はじめに② 国際航空法の誕生

1902年 国際法協会ブリュッセル会議 **気球飛行 Balloon Flight**に関する規律の必要性が確認

1903年 ライト兄弟が有人飛行に成功

1909年 Blériotによるイギリス海峡横断

1910年 **パリ国際航空会議**(18か国参加)

→ 航空圏とその下の国との法的関係について意見は決裂

1919年 **パリ条約**を発端に航空法が発展(27カ国が調印・1922年発効)

→ **領空主権**が認められる

→ **航空機**が定義される(1944年シカゴ条約にも引き継がれる)

WWII中・・・以下の3条約が締結

1944年 **国際民間航空条約**・**国際航空業務通過協定**・**国際航空運送協定**

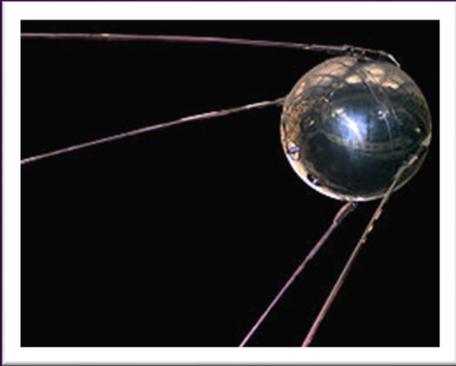
第2次世界大戦に開発・使用された
V2ミサイル(ロケット)は
航空機の定義から外れるため
航空法の文脈では検討されず

目次

1. 講師紹介
2. 講義の目的
3. 参考文献の紹介
4. 評価方法(試験)
5. 出席票・質問票について
6. はじめに① 国際法における空域・宇宙空間
7. はじめに② 国際航空法の誕生
8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

① UN COPUOS



スプートニク1号
©NASA

1957-58年 国際地球観測年 (International Geophysical Year: IGY)
1957年10月4日 旧ソ連が人工衛星「スプートニク1号」の打ち上げを成功
1958年1月 米国が人工衛星「エクスプローラー1号」の打ち上げを成功
国際社会は宇宙空間への**軍拡競争**を懸念

1958年12月13日 国連総会決議1348 (XIII)

「Question of the Peaceful Uses of Outer Space」

アドホック**国連宇宙空間平和利用委員会**を設置 (18か国により構成)

(**COPUOS**: Committee on the Peaceful Uses of Outer Space)

宇宙空間の**平和利用**についてのみ考察

1959年12月12日 国連総会決議1472 (XIV)

「宇宙空間の平和利用に関する国際協力」決議

→COPUOSは**常設**となる (24か国により構成)



第1回COPUOS会合¹⁹ (1959年) ©UN Photo

8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

② 宇宙条約に影響を与えた国際条約

1959年 南極条約が成立 (→宇宙条約に影響を与える)

1961年 国連総会決議1721 (XVI) 国際法の適用・宇宙空間自由の原則

1963年 国連総会決議1962 (XVIII)

「宇宙空間の探査及び利用における国家活動を律する

法原則に関する宣言」

1963年 大気圏・大気圏外および水中における核実験禁止条約が成立
(→宇宙空間における核実験が禁止される)

1967年 「月その他の天体を含む宇宙空間の探査および利用における
国家活動を律する原則に関する条約」(宇宙条約)

※ COPUOSにおいて全会一致(コンセンサス方式)で採択



1961年 国連総会で演説するケネディ大統領 © UN Photo

“As we extend the rule of law on earth, so must we also extend it to man’s new domain -- outer space.”

“All of us salute the brave cosmonauts of the Soviet Union. The new horizons of outer space must not be driven by the old bitter concepts of imperialism and sovereign claims. The cold reaches of the universe must not become the new arena of an even colder war. To this end, we shall urge proposals extending the United Nations Charter to the limits of man’s exploration of the universe, reserving outer space for peaceful use, prohibiting weapons of mass destruction in space or on celestial bodies, and opening the mysteries and benefits of space to every nation.”

8. はじめに③ 国際宇宙法の誕生

③ 国連宇宙諸条約と法原則

COPUOS + 国連総会で採択された決議や諸原則

条約

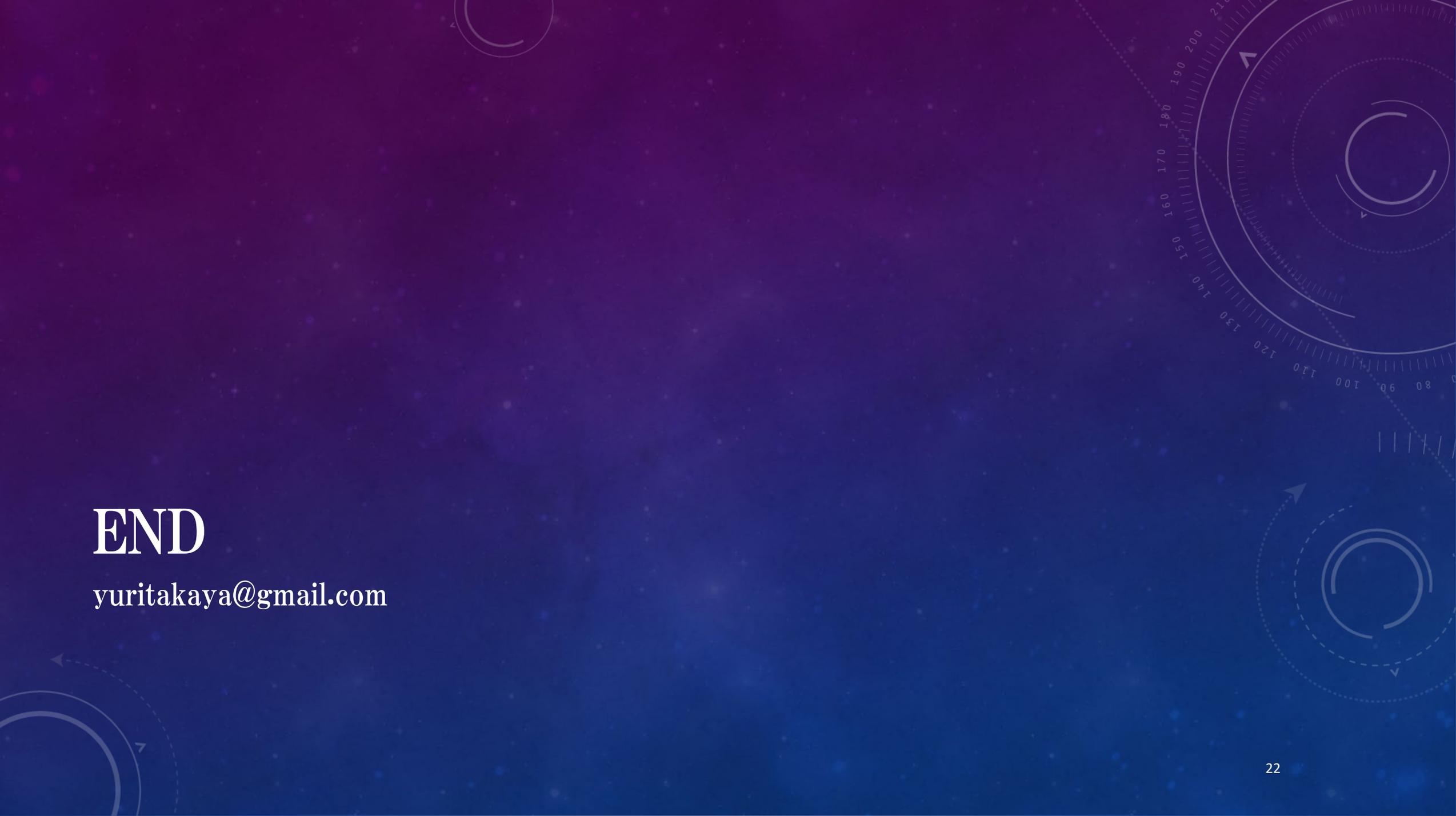
Hard Law

1967年 宇宙条約	※日本1967年に批准
1969年 宇宙救助返還協定	※日本1983年に批准
1972年 宇宙損害責任条約	※日本1983年に批准
1975年 宇宙物体登録条約	※日本1983年に批准
1979年 月協定	※日本未批准

ソフトロー

Soft Law

1982年	直接放送衛星原則
1986年	リモートセンシング原則
1992年	原子力電源(NPS)原則
1996年	スペースベネフィット原則
2004年	「打ち上げ国」概念適用
2007年	宇宙物体登録実行向上勧告
2007年	スペースデブリ低減ガイドライン
2013年	探査・利用に関する国内法制定勧告
2019年	宇宙活動に関する長期持続性ガイドライン

The background is a dark blue gradient with a field of small white stars. Overlaid on this are several technical diagrams in a lighter blue color. In the top right, there is a large circular diagram with concentric rings and radial lines, resembling a scale or a gauge, with numbers from 80 to 210. In the bottom right, there is a smaller circular diagram with dashed lines and arrows. In the bottom left, there is another circular diagram with solid lines and arrows. In the top left, there is a small circular diagram with a dashed line and an arrow.

END

yuritakaya@gmail.com